

生活景観づくりへの取り組み

岐阜市加納地区および周辺地区のまちづくり

今田太郎（岐阜工業高等専門学校准教授）

1. 岐阜市加納地区について

岐阜市加納地区は JR 岐阜駅南部に位置する。加納地区は中山道の宿場町であり、また加納城の城下町でもあった。

地区内には、伝統的産業である和傘づくりや加納城趾、旧加納町役場等の史跡を抱えている。

2. 加納まちづくり会について

加納まちづくり会は、加納東・西の自治会連合会、中山道加納宿文化保存会等の活動を土台に2004年11月に設立された（会員数114名）。地域住民を中心に、行政、地元学校関係者、研究者等様々な立場の人々が参加している。

3. 生活景観づくりへ

加納地区は豊かな歴史資源を持つ一方で、多くの人々が暮らす住宅地でもある。そこで、歴史的風景を単に修景し残すだけではなく、生活景観という概念をキーワードに人々の生活が生き生きとした風景として歴史的な文脈に重なりあうまちを目指して様々な取り組みを行っている。

4. 生活景観を実現するための方法

生活景観づくりに向けて様々な取り組みをこれまで行ってきた。（表）

1) **加納を知り、情報を共有する**：取り組みの特徴の一つは加納の町を住民や周辺の人達によく知ってもらうことを意図したものが多くある。ミニコミ紙や加納ものしり博士、タウンウォッチングや子供と一緒にマップづくり等、楽しみながら様々な情報の発掘、共有を試みてきた。

2) **重層的・連鎖的まちづくり**：また、一元的な取り組みではなく、様々な取り組みを重ねようとしている点にも特徴がある。例えば、加納ものしり博士のノウハウがスタンプラリーという形で、コミュニティバスの周知に活かされたり、タウンウォッチングと和傘等、様々な異なる要素が組み合わせられることで新しい場面が生まれつつある。

3) **多様な主体の協働**：まちづくり会をフラットな議論のテーブルとして、立場の分け隔てなく協力し合う関係が生じ、上記2点の基盤となっている。

表 主な取り組み

| 項目 | 内容 |
|-------------|---|
| ミニコミ紙「加納の風」 | まちづくり会の活動を会員に周知し、情報を共有する為にミニコミ紙を発行。 |
| 加納ものしり博士 | 地域の人達に、地域への関心を深めてもらう為に、加納地区の様々な情報を盛り込んだクイズを実施 |
| 和傘教室 | 和傘をより身近なものとして感じ、その魅力を知ってもらう為に実施した。 |

| | |
|------------|--|
| スタンプラリー | 試行運用中のコミュニティバスの認知度を高める為、加納ものしり博士の経験を生かして実施。 |
| 子供とマップづくり | 小学生の好きな場所、怖い場所等を子供達の視点で地図化した。作成した地図は、会員に配布してまちづくり会全体で共有した。 |
| タウンウォッチング | 時には和傘をさしながらのお花見ウォーク等機会ある毎にタウンウォッチングを行っている。 |
| 中山道サインデザイン | 有志でタウンウォッチングやワークショップを行い、サイン計画を検討した。 |
| 加納の日 | 講演会、和傘教室、タウンウォッチング等を併せて毎年11月に行っている。 |



写真 タウンウォッチングの一場面



写真 子供達とつくった地図

5. これから

加納まちづくり会の活動は、初期段階から次の段階へと移行する途中段階にある。現在、様々な要素と連携した朝市や加納城趾におけるイベント等を議論している。これまでの積み重ねを活かしながら、新しい生活景観を産み出すことを試みていきたいと考えている。